

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

令和 7 年 3 月 25 日

都築教育学園

第一幼児教育短期大学附属

鹿児島第一幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びの重要性を念頭に置きながら、一人ひとりの個性や良い特性を伸ばすことを心がけるとともに、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られるよう環境を工夫し、友達と十分にかかわって遊びや活動に取り組めるように配慮するなど、幼児期にふさわしい生活が展開されるような幼児教育を目指している。

2. 本年度重点的に取り組んだ目標・計画

令和 6 年度に取り組む課題として、年度当初に「安全管理」「協働の促進」を掲げていた。「安全管理」については、今年度本県においても、8 月と 1 月に最大深度 5 以上の地震が発生したことを受け、特に年少少組の緊急避難体制の確立を目指した。「協働の促進」については、職員同士の連携および保護者との連携がしっかりと図られるように努めた。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育・保育の実践	A	園の教育方針に基づき、年齢に応じた保育計画を立て、実践している。また、一人ひとりの個性を尊重して関わるように努めた。
2	安全管理・健康管理	A	緊急時の対応を理解し、実践するように心がけた。また、子どもの健康状態に気を配るように心がけた。
3	チームワーク・職員間の連携	C	他の教員と協力しながら保育を勧めることができた一方、保育内容についての積極的な意見交換が十分だったとは言えない。
4	保護者への対応	B	いろいろな方法を用いて子どもの様子をこまめに伝え、連携を図るように努め、まずは保護者の思いを受け止めるように心がけた。
5	自己研鑽・スキルアップ	B	園で購入している保育専門誌に目を通す、定められた研修会に出席することなどは達成できているが、知識・技術を学び続けることについて、今後積極的に取り組みたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	令和6年度の重点項目として「協働の促進」に努めたが、職員の自己点検において「チームワーク・職員間の連携」の自己評価が他の項目に比べ若干低かった。職員一人ひとりの思いを受け止め、今後、より確実な職員間および保護者との連携を構築するための手立てを検討し、実現していきたい。幼稚園教育は環境を通して行うものであることを今一度再確認し、幼児の主体的な活動を促すことの重要性を踏まえ、今後も教師との信頼関係に支えられた生活が実践できるよう努めていきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	協働の促進 （令和7年度）	子どもを主体とした教育を実現する上で、職員間の連携、保護者と職員の連携が重要であることから、さまざまな機会をとらえて、連携を図るように努めたい。また、子育て支援に観点から、保護者同士のかかわりの機会も状況に応じて設定していきたい。
2	研修の強化 （令和7年度） （令和8年度）	国が求めるミドルリーダーの研修受講要件について、本園ではミドルリーダー以外の職員も満たすような研修計画を立て、変化に強い体制づくりに努めたい。
3	子育て支援 （令和7年度）	保護者のニーズに合わせた子育て支援の取組が実践できるよう、さまざまな観点から現状を見直していきたい。

6. 学校関係者評価委員会の詳細

開催日	令和7年3月20日（木）
出席者	・ 第一幼児教育短期大学 幼児教育科学科長 ・ 法人事務局総務課長 ・ 保護者代表 ・ 幼稚園事務長 ・ 園長代理 以上5名
評価内容	自己評価の結果と保護者アンケートの結果をもとに、今後の本園の取り組みについて以下のように提言をいただいた。 1. 保護者の安心を支える体制づくり

	教職員の業務量が多く、多忙であるようだが、園全体で保育現場の構造的課題の解決に努め、担任が余裕をもって子どもたちと関われるような環境の整備を検討してはどうか。 2. 短大との連携・地域連携について 第一幼児教育短期大学の附属幼稚園として、学生との交流の機会をよりシームレスに設けてはどうか。また、地域連携の中でも異文化理解という観点から、国際交流について積極的に進めることを検討してはどうか。
--	--